

## 《臺灣米研究》目次

一、米は吾人の生命	頁 19-20
二、本島米作の由來	頁 20-21
三、米作改良施設の大要	頁 21-26
米種改良事業の沿革	頁 21-22
米種改良の方法	頁 22-23
事業の一般計畫	頁 23
事業の特別計畫	頁 23-24
米種改良事業の効果と蓬萊米の出現	頁 24-26
四、移出米としての米種の移動	頁 26-38
粳米は在來種より内地種へ	頁 26-35
糯米は在來種丸糯米の全盛	頁 35-38
五、檢米制度の變革と檢米上の諸問題	頁 39-56
檢米制度の沿革	頁 39-40
檢米制度の變革	頁 40-45
檢米上の諸問題	頁 45-56
六、移出米取引の推移	頁 56-102
搖藍時代	頁 56-59
販路擴張時代	頁 59-67
全盛時代	頁 67-76
混線時代	頁 77-85
改善時代	頁 85-102
七、本島に於ける米穀取引所設置の是非と正米市場の機能	頁 102-113
内地取引所の瞥見	頁 102-104
本島に於ける取引所設置運動の經過	頁 104-106
本島に於ける米穀取引所設置の是非	頁 106-109
正米市場の機能	頁 109-113
八、米商と諸問題	頁 113-152
移出米商組合	頁 113-117
米商と船會社	頁 117-123
米商と銀行	頁 123-126
米商と税金	頁 126-128
蓬萊米の定期代用	頁 128-135

蓬萊米の堂島取引所別建問題	頁 135-139
米商の疲弊と其の打開策	頁 139-141
米界に對する最近の世論	頁 142-152
九、米價調節の效果如何と臺灣の米	頁 152-177
米價調節の歴史	頁 152-171
米價調節の效果如何と臺灣の米	頁 171-177
一〇、移出米商の興亡	頁 177-185
資本的に優越な三井物産	頁 177-178
虎視眈々たる三菱商事	頁 178-179
新興勢力の杉原商店と加藤商會	頁 179
瑞泰の歴史	頁 179-181
米界の智者金德發と振發	頁 181-182
移出米取引に見切りをつけた和豐、方協豐、黃鼎興	頁 182
資力豊かな大同商行と新進氣鋭の大東商行	頁 182-183
波瀾重疊であつた津坂商行	頁 183
關東大震災の被害から參つてしまつた岩崎商業	頁 183
財界不況から退陣した阿部幸商店	頁 183
終りを完うした宮副商店	頁 183-184
蓬萊米の買占で有名な泉和組	頁 184-185
一一、現在本島米界に踊る人々	頁 186-190
移出米商組合長杉原佐一氏と井出松太郎氏	頁 186-187
正米市場、米穀代行會社の首腦者吳澄淇氏及び吳培詮氏	頁 187
瑞泰の當主許雨亭氏	頁 187
三井の菅沼邦彦氏と森田銳治氏	頁 188
三菱商事の谷口清氏	頁 188
正米市場常務理事貝山好美氏	頁 188-189
米穀代行會社の監査役田村良太郎氏と蔡受三氏	頁 189
移出米商組合理事林濟川氏と正米市場書記長姜鼎元氏	頁 189-190
一二、結論	頁 190-194
附録：臺灣米に關する各種統計表	頁 194-201